

令和6年度全国学力・学習状況調査結果 (No. 1)

会津若松市教育委員会

1 全国学力・学習状況調査の結果の概要

(1) 調査に関する概要

実施日	令和6年4月18日(木)	
実施人数 (実施校数)	小学校6年生 805名(19校)	中学校3年生 785名(11校)

(2) 教科に関する調査結果の概要(平均正答率)

【小学6年生】

	会津若松市	会津地区	福島県	全国
国語	68	67	66	67.7
算数	60	59	60	63.4

【中学3年生】

	会津若松市	会津地区	福島県	全国
国語	55	55	57	58.1
数学	46	45	48	52.5

(3) 全国学力・学習状況調査における目標値と結果

「あいづっこ学力向上推進計画」※¹における、全国平均を100としたときの、調査を実施した全教科での目標値と結果は、下記のとおりです。

年度によって、2教科(国語と算数・数学)が実施される場合と3教科(国語と算数・数学に加え理科もしくは中学校英語)が実施される場合があります。

令和6年度に実施された学力調査は、下記のとおりです。

【全国平均を100としたときの会津若松市の調査結果】

	小学校	中学校
令和6年度目標値	103.6	99.8
調査結果	97.6	91.3

※1 平成29年度から令和8年度までの10年間の学力向上計画

【全国平均を 100 としたときの各市立学校の調査結果】

全国を 100 とした場合の各市立学校の目標値に対する達成状況を、学校数で公表いたします。令和 6 年度の会津若松市の目標値を達成した学校数は、小学校 6 校、中学校 2 校でした。

《小学校》

令和 6 年度目標値	103.6
103.6 以上	6 校
103.6 未満	13 校
計	19 校

《中学校》

令和 6 年度目標値	99.8
99.8 以上	2 校
99.8 未満	9 校
計	11 校

※ 「100」（全国以上）は、小学校 7 校、中学校 2 校です。

【参考】教科に関する調査結果一覧

市立学校の各教科の調査結果について、全国の平均正答率を基準とした結果について学校数で公表いたします

		小学校		中学校		
		国語	算数	国語	数学	英語
Aグループ 全国平均を上回る (全国平均+2以上)	R3	9校	6校	2校	1校	
	R4	6校	6校	6校	3校	
	R5	8校	4校	2校	0校	1校
	R6	6校	6校	1校	1校	
Bグループ 全国平均をやや上回る (全国平均+1以上+2未満)	R3	2校	3校	3校	0校	
	R4	3校	2校	0校	0校	
	R5	0校	1校	0校	0校	0校
	R6	3校	0校	0校	0校	
Cグループ 全国平均とほぼ同じ (全国平均±1未満)	R3	2校	1校	3校	0校	
	R4	0校	0校	0校	1校	
	R5	3校	3校	2校	0校	0校
	R6	2校	2校	1校	1校	
Dグループ 全国平均をやや下回る (全国平均-1以上-2未満)	R3	1校	1校	1校	2校	
	R4	1校	1校	0校	1校	
	R5	0校	3校	1校	0校	1校
	R6	1校	0校	2校	0校	
Eグループ 全国平均を下回る (全国平均-2以上)	R3	5校	8校	2校	8校	
	R4	9校	10校	5校	6校	
	R5	8校	8校	6校	11校	9校
	R6	7校	11校	7校	9校	

公表内容は、学校の序列化を意図したのではなく、共有されるべき大切な情報の一つとして市民の皆様へ公表するものです。市民の皆様には、今回の公表内容に加え、各学校から提供される情報（学校だよりやホームページ等）をご覧くださいませよう願っています。

※ 学校種は文部科学省の表記に合わせております。義務教育学校前期課程は小学校、義務教育学校後期課程は中学校に読み替えてください。

令和6年度全国学力・学習状況調査結果 (No. 2)

会津若松市教育委員会

2 各教科の学力調査結果に見るあいつこの強み (○) と課題 (●)

「令和6年度 全国学力・学習状況調査」の問題については

・ <https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>

(国立教育政策研究所ホームページ) をご覧ください。

- 小学校国語では、「漢字を文の中で正しく使う(書く)ことができる」かどうかを見る問題の正答率が、全国正答率より高くなっています。
- ☞ 検定受検に対する補助事業を活用して、多くの児童が漢字検定に積極的に挑戦していることが成果として表れてきていると考えられます。

問題番号		平均正答率 (%)		問題の概要
		会津若松市	全国	
小学校 国語	2三ア	48.6	43.4	漢字を使って書き直す (きょうぎ)
	2三イ	83.7	76.0	漢字を使って書き直す (なげる)

- 小学校国語では、読むことの領域の問題(全3問)すべてで、正答率が全国の正答率より高くなっています。
- ☞ 描写をもとに登場人物の心情や人物像を具体的に想像し、自分の思いや考えを理由とともに表現するという読むことの授業展開がなされていると考えられます。

問題番号		平均正答率 (%)		問題の概要
		会津若松市	全国	
小学校 国語	3二(1)	68.1	66.9	登場人物の相互関係や心情などについて読み取ることのできる根拠となる描写を選ぶ
	3二(2)	73.0	72.5	友達の発言から、人物像を具体的に想像し、友人が着目した物語の観点を選ぶ
	3三	75.1	72.6	物語を読んで心に残ったこととその理由を60字から100字でまとめて書く

○ 小学校算数の、「図形」の領域の問題（全4問）の総合で、正答率が全国の正答率より高くなっています。

☞ 見取り図や展開図などについて数学的活動を生かした授業展開がなされているものと考えられます。

問題番号		平均正答率（％）		問題の概要
		会津若松市	全国	
小学校 算数	3(1)	85.1	85.5	作成途中の直方体の見取り図として正しいものを選ぶ
	3(2)	76.3	71.3	円柱の展開図について、直径、円周、円周率の関係を理解し、適切なものを選ぶ
	3(3)	39.4	36.5	球の直径と立方体の一辺の関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に書く
	3(4)	70.4	72.0	五角柱の面の数とその理由を、底面と側面に着目して書く

※ 領域全体の正答率では、会津若松市 67.8、全国 66.3 です。

● 小学校算数の、数と計算の領域の問題（全5問）すべてで正答率が、全国の正答率より低くなっています。

☞ 計算処理の技能習得だけではなく、問題の趣旨を注意深く丁寧に捉えたり、計算の仕方を言葉で説明したりするなど、計算能力を活用する場面を設定することなどが必要です。

問題番号		平均正答率（％）		問題の概要
		会津若松市	全国	
小学校 算数	1(1)	50.9	62.1	数量の関係を正しく捉え、数を求める正しい式を選ぶ
	1(2)	88.3	88.5	数量の関係を正しく捉え、□を用いた正しい式を選ぶ
	2(1)	53.7	56.9	乗法に関して成り立つ性質を利用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを書く
	2(2)	63.5	69.1	除数が1/10になったときの商の大きさについて正しいものを選ぶ
	4(1)	61.1	70.1	除数が小数である場合の除法の計算をする

● 中学校数学の数と式の領域の問題（全5問）すべてで正答率が、全国の正答率より低くなっています。

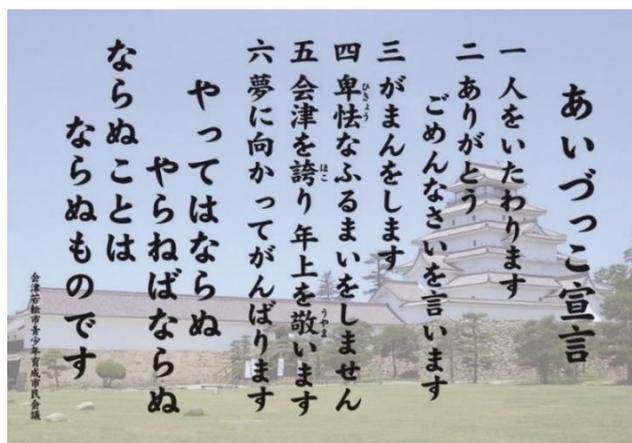
☞ 文字式が表す意味や等式変形の意味などについて考え、数学的表現を用いて説明する機会をこれまで以上に設けていく必要があります。

問題番号		平均正答率 (%)		問題の概要
		会津若松市	全国	
中学校 数学	1	19.5	34.8	連続する二つの偶数を、文字を用いた式で書く
	2	48.7	52.5	等式を目的に応じて変形する
	6(1)	87.8	90.2	計算のルールを正確に捉え、正の数と負の数の加法の計算をする
	6(2)	26.0	35.9	文字式を変形したりその意味を読み取ったりして、予想が成り立つことを説明する。
	6(3)	35.4	41.8	(2)を参考に、目的に応じて文字式を変形したりその意味を読み取ったりして、成り立つ事柄を数学的表現を用いて説明する

● 中学校国語の、記述式の問題（全2問）すべてで正答率が、全国の正答率より低くなっています。

☞ 自分の考えを表現する機会を各単元に設定し、表現する練習が必要です。また、日常の授業の振り返りの記録や、日記、週末課題や活用力育成シート^注を活用するなどして表現の場を意図的に設定していくことも考えられます。

問題番号		平均正答率 (%)		問題の概要
		会津若松市	全国	
中学校 国語	1四	39.2	44.7	話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えを表現する
	3四	43.9	49.3	自分の考えが伝わるように表現を工夫して書くとともに、その表現の効果を説明する



注 県教育委員会が、小学4年生から中学2年生までを対象に、年2回作成している問題シート。児童生徒一人一人の「思考力、判断力、表現力等」を育成するために、授業の質的改善や校内研修の充実を目指す際の参考になるように作成されている。

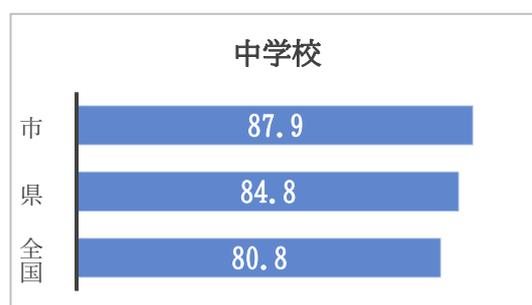
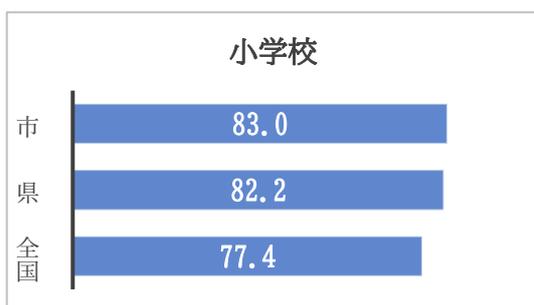
令和6年度全国学力・学習状況調査結果 (No. 3)

会津若松市教育委員会

3 各質問紙調査に見るあいつこの強み (○) と課題 (●)

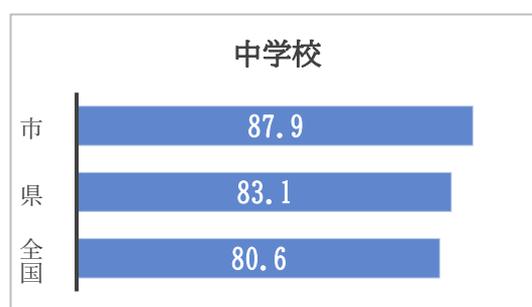
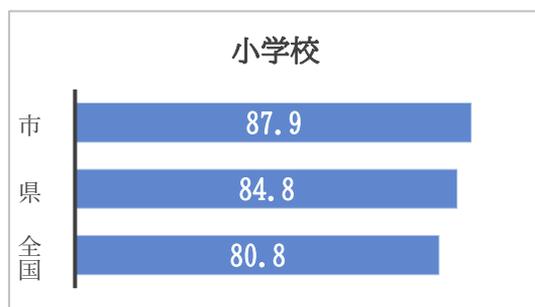
○ 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答している割合が全国平均を上回っています。粘り強く、学習を調整していく主体的な学習態度が育ってきています。

【児童生徒質問紙】



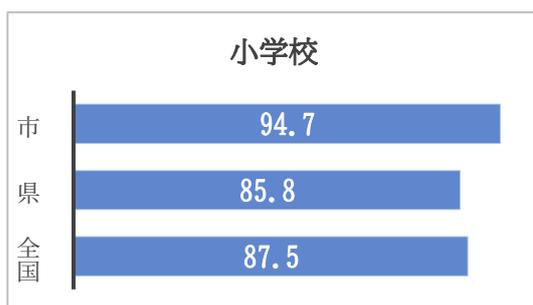
○ 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」と回答している割合が全国平均を上回っています。望ましい学級集団づくりがなされてきていると考えられます。

【児童生徒質問紙】



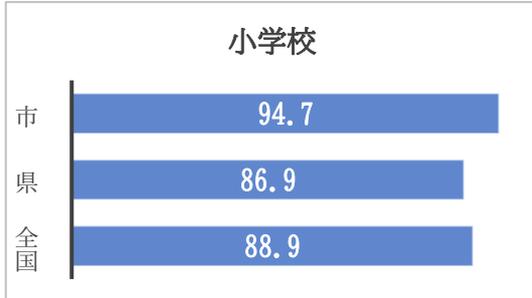
○ 「前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを月2回以上行った」という割合が全国平均を上回っています。担任一人で抱え込まず、チームとして児童生徒に関わっていると考えられます。

【学校質問紙】



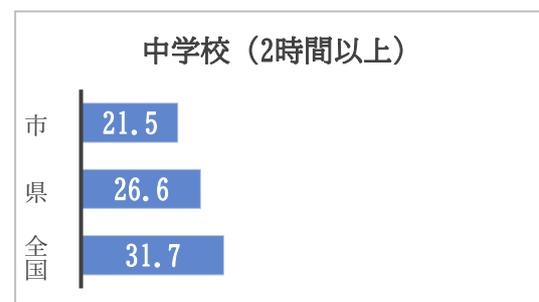
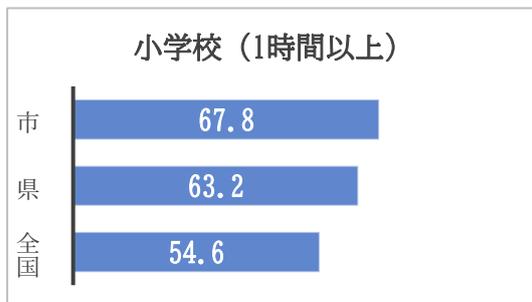
- 「コミュニティ・スクールや地域連携協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった」という割合が全国平均を上回っています。地域総ぐるみで子どもたちを育成していくという考え方が広がってきています。

【学校質問紙】



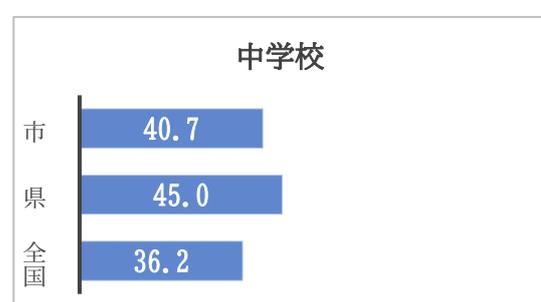
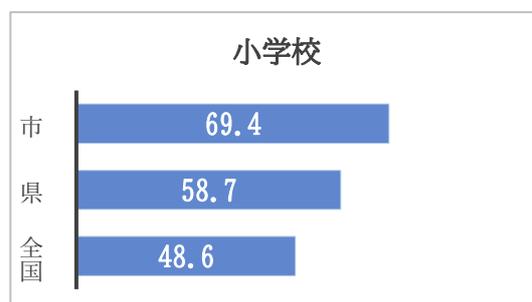
- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に、小学校については本市の目標値である「1時間以上している」と回答した割合が全国平均を上回っています。中学校については目標値の「2時間以上している」と回答した割合が、全国平均を下回っています。中学校については「1時間以上」で見ると全国とほぼ同じであり、あと少し学習時間を確保できるよう、テレビやスマホ等の時間を減らしたり、隙間時間を活用したりできるよう、平日の生活の仕方の見直しも必要と考えられます。

【児童生徒質問紙】

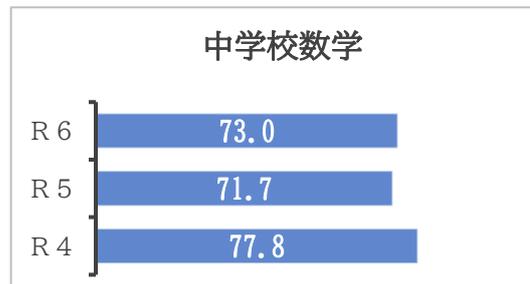
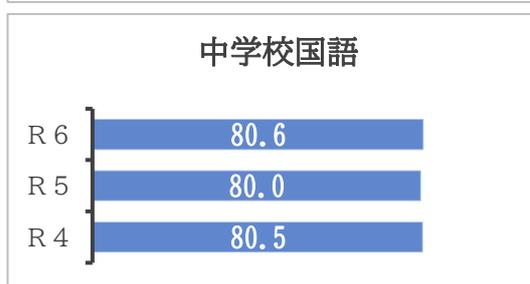
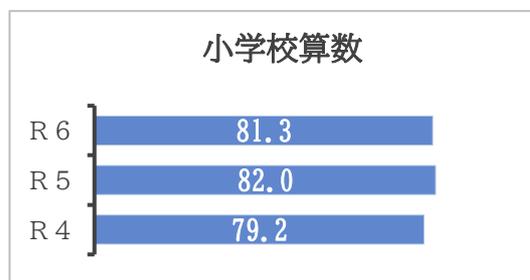
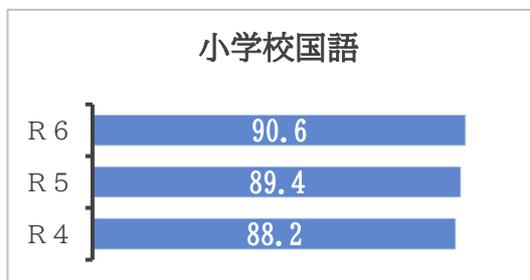


- 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか」の質問に、小学校と中学校のそれぞれの本市の目標値以上に学習していると回答している割合は全国平均を上回っています。平日学習し切れていない分を休みの日にがんばっていることがわかります。

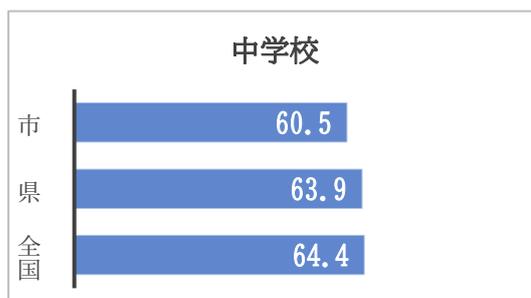
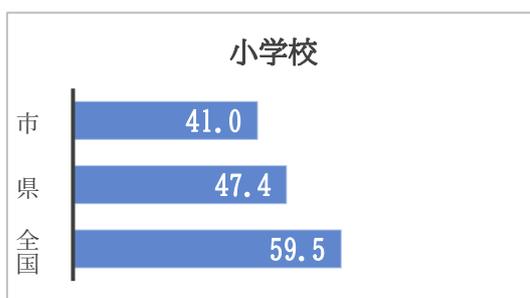
【児童生徒質問紙】



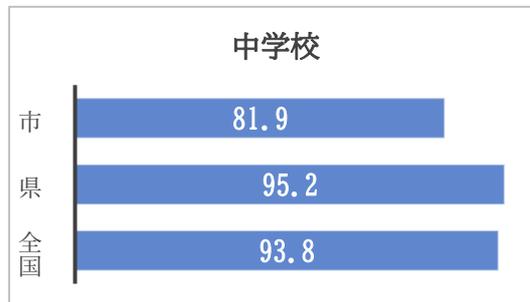
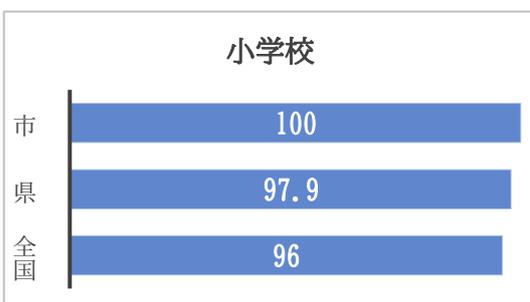
- 「授業の内容がよく分かる」と回答している割合は、小学校の国語、中学校の国語及び数学では前年度の割合より高くなりましたが、小学校の算数では前年度の割合より低くなりました。全国を100としたときの正答率の比較の際と同じように小学校の算数に課題が見られました。引き続き、個に応じた指導などを通して「わかる授業」に努めていく必要があります。【児童生徒質問紙】



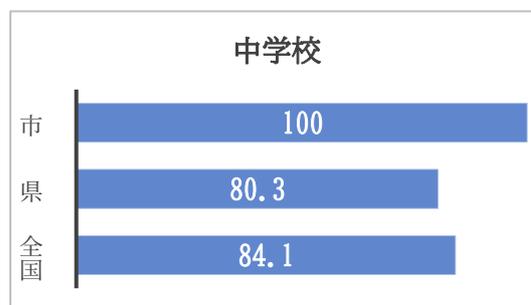
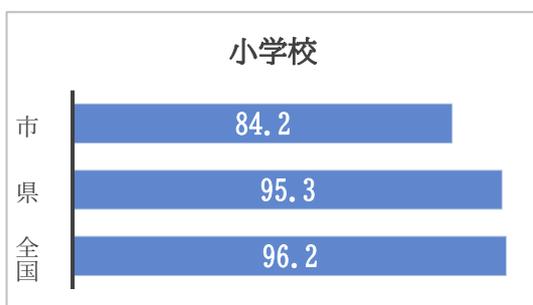
- 「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問に、週3回以上使用している割合は、全国平均を下回っています。特に小学校では、教材研究を進める中で活用機会を明確に位置づけるなどして、効果的にICT機器を使用する必要があります。学年単位で活用機会をそろえることが必要です。【児童生徒質問紙】



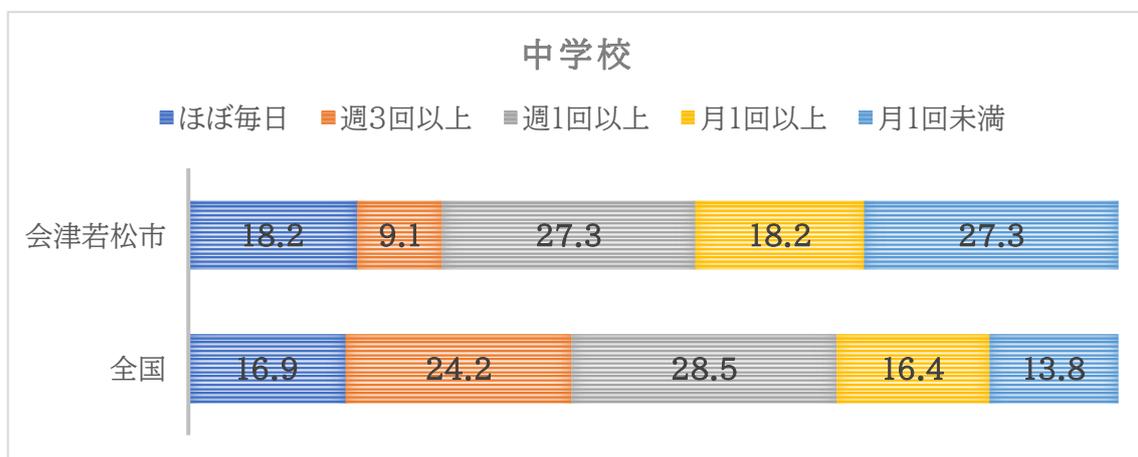
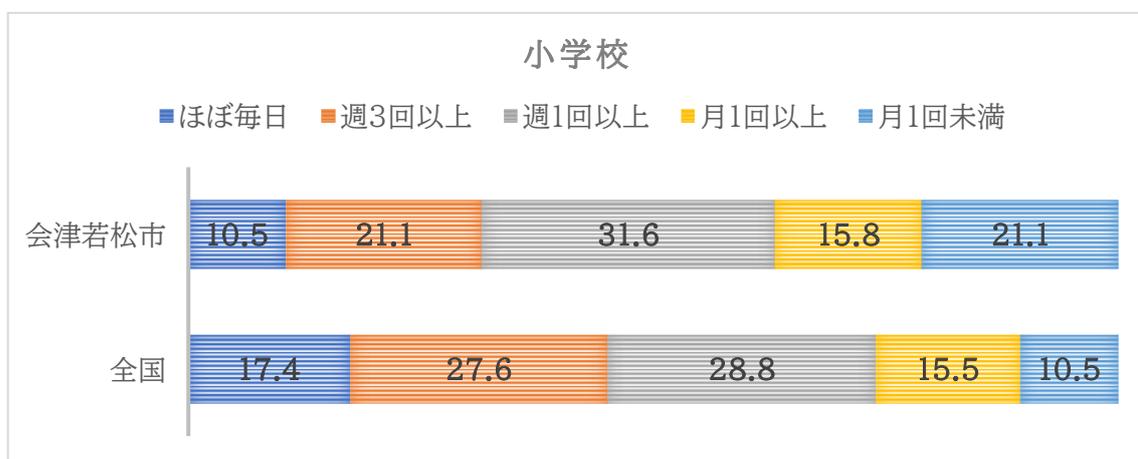
- 「言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいる」と回答している割合は、小学校は全国平均を上回り全ての学校で取り組んでいると回答していますが、中学校は全国平均を下回っています。中学校では、ねらいを明確にして、単元の中に言語活動を位置づけていく必要があります。【学校質問紙】



- 「調査対象学年の児童生徒に対する算数（数学）の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行った」と回答している割合は、小学校では全国平均を下回りましたが、中学校では全ての学校が行ったと回答しています。中学校での授業改善等が図られてきていると考えられます。 【学校質問紙】



- 「児童生徒同士がやりとりする場面で一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていたか」の質問に、「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した割合が、全国平均より少ない結果となっています。効果的な活用により、協働的な学びが充実するようにしていくことが必要です。 【学校質問紙】



令和6年度全国学力・学習状況調査結果 (No. 4)

会津若松市教育委員会

4 学力向上の対策

改めて、学校、家庭・地域、教育委員会が学力向上に対する課題意識を共有し、それぞれが主体的に、あいづっこの学力の向上のため、確実に取組を進めていく必要があります。

◎ タブレット端末とデジタルドリルの活用も含めた家庭学習への支援や、家庭・地域と連携した生活習慣、学習習慣作りをより一層推進するとともに、ボランティア、あいづっこ数学サポートティーチャーなど地域の人材を活用して、学校・家庭・地域が一体となった推進体制の構築を図っていきます。

◎ 解説シートなどを使って解説まで行ったり、各校の実態に応じて分野別シートで複数回実施したりするなど、「ふくしま活用力育成シート」の効果的な活用を推進します。

実施時間の確保のためには、各学校の年間指導計画に沿って授業が計画的に進むよう指導助言をしていきます。また、その時間をチャレンジテストの実施や学年末の振り返りの充実に役立てます。

◎ 授業の「めあて」と「まとめ」を大切にし、児童生徒にとってわかる授業を展開し、基礎的・基本的な内容を定着させます。

単元全体を見通して、ねらいを明確にして言語活動を設定し、習得した知識や技能を活用して考える場面や、級友と協働して考えを広げたり深めたりする場面、その考えを適切に表現する場面などを位置付けることで、計画的に思考力・判断力・表現力等を育成していく必要があります。

教育委員会は、その授業づくり(単元づくり)について、学校に寄り添いながら指導助言をしていきます。

◎ 授業では、児童生徒が考える時間、活動する機会、協働して学ぶ時間が確保できるようにします。

説明を精選し、練り上げた発問をすることで、児童生徒がじっくりと考える時間を設定します。ペアや班活動などを効果的に取り入れ、一人一人が自分の考えを表現する機会を設定します。またそのような児童生徒同士がやりとりする場面では、1人1台タブレット端末などのICT機器を活用し、自分の考えとは異なる考えを効果的に共有するなどして協働的な学びを推進します。

教育委員会は、ICT機器の操作研修や、デジタルドリル・デジタル教科書活用の好事例の共有の機会を設けるとともに、各校の推進計画の見直しを促し、効果的なICTの活用が進むよう指導助言していきます。

◎ 学力向上の基盤づくりとしてQ-U等を活用した学びの集団づくりや図書館支援員や新聞を活用した学びによる読解力の向上を推進します。また、学習意欲の向上に向けて、各種検定試験受検を促進するとともに、映画やまなべこツアーなどの郷土学習などの体験活動により、憧れや誇りをもち、夢に向かってがんばるチャレンジ精神を育みます。

「令和6年度 全国学力・学習状況調査」の問題については

- ・ <https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>

「令和6年度 全国学力・学習状況調査」の結果については

- ・ <https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukou/>



をご覧ください。（国立教育政策研究所ホームページ）